

【演習1】

日本語教育の体制整備とは

武蔵野大学 神吉宇一

vichik1113@gmail.com

演習1の内容

1. **アイスブレイクと自己紹介**
2. **最近の日本語教育の動向**
3. **地域日本語教育で重視するポイント**

自己紹介

1. 名前と所属と役割
2. 今日の研修に期待すること
3. (時間が余ったら) 好きな飲み物

1分×6人=6分

日本語教育の動向

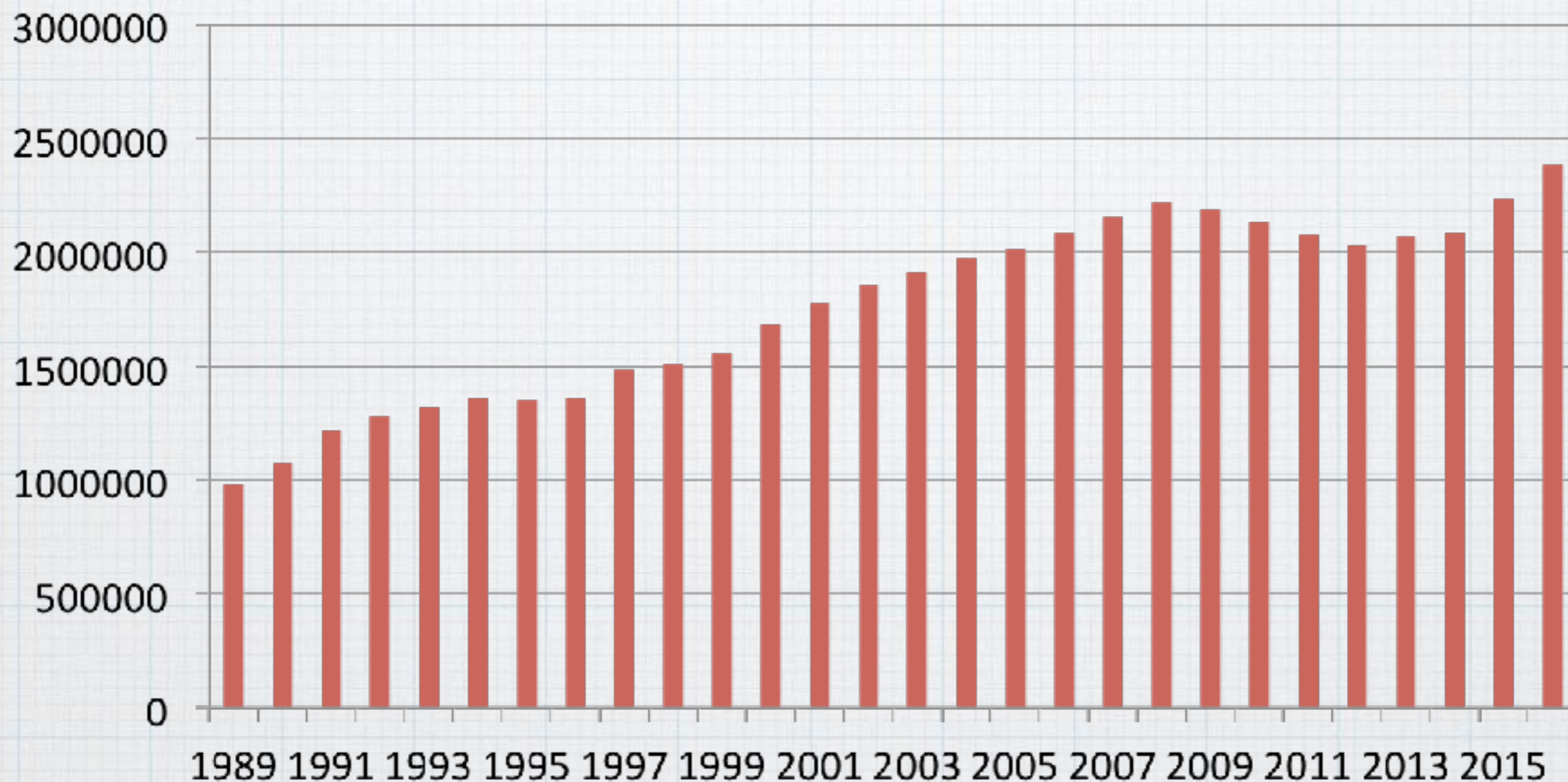
1. 定住型外国人の増加

2. テクノロジーの発達

3. 制度設計

定住外国人の増加 (1)

外国人登録者数/在留外国人数



入国管理局統計より発表者作成

定住外国人の増加 (2)

2001年		2016年	
特別永住者	500,782	永住者	727,111
永住者	184,071	特別永住者	338,950
日本人の配偶者等	280,436	留学	277,331
定住者	244,460	技能実習	228,588
留学	93,614	定住者	168,830
家族滞在	78,847	技術・人文知識・国際業務	161,124
興行	55,461	家族滞在	149,303

入国管理局統計より発表者作成

テクノロジーの発達 (1)

テクノロジーの発達, AI, ディープラーニング

◆ **BBC Newsの機械翻訳**

◆ **Google translateの精度向上**

◆ **Skype翻訳**

◆ **Microsoft Translator**

制度設計

- * 総務省 「地域における多文化共生推進プラン」
- * 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会
- * 日本語教育推進議員連盟

多文化共生推進プラン

* 外国人住民の「コミュニケーション支援」

* 「多文化共生」とは

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと



地域における**多文化共生の基盤づくり**のために**住民全体**が対象となる

地域における 日本語教育とは (1)

*** 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会 (2009)**

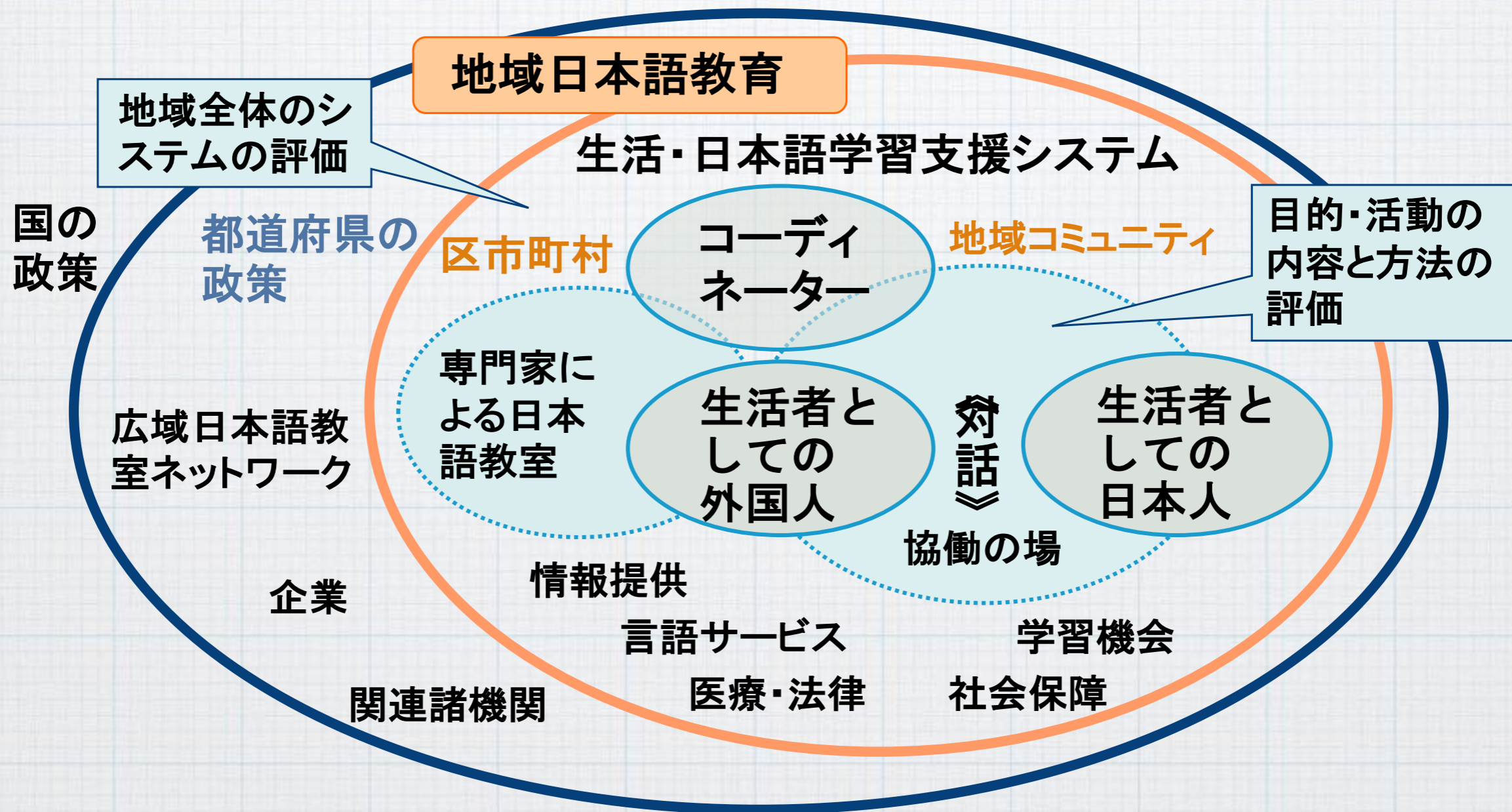
地域における日本語教育は、多文化共生社会の実現に向けての取組みでもあり、日本語教育を推進するためには、ボランティアや専門家のほかに一般市民の参加が必要不可欠**である**

地域における 日本語教育とは (2)

* 日本語教育学会 (2008)

地域日本語教育は、「日本語を教える／学ぶための教室」の範囲を超え、全ての人によりよく生きる社会の実現のために、それを妨げる問題を問い、日本語コミュニケーションの側面からの働きかけによって**多文化共生の地域社会形成を目指す活動や制度、ネットワークの総体**としてとらえる必要がある

地域における 日本語教育とは (3)



出典：『外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）報告書』
日本語教育学会（2008）

ポイント1

ことばの役割

1. 情報伝達

2. 思考の礎

3. 関係づくりや社会・コミュニティづくり

ポイント2

「場」としての地域日本語教室

1. 思考の深化の「場」

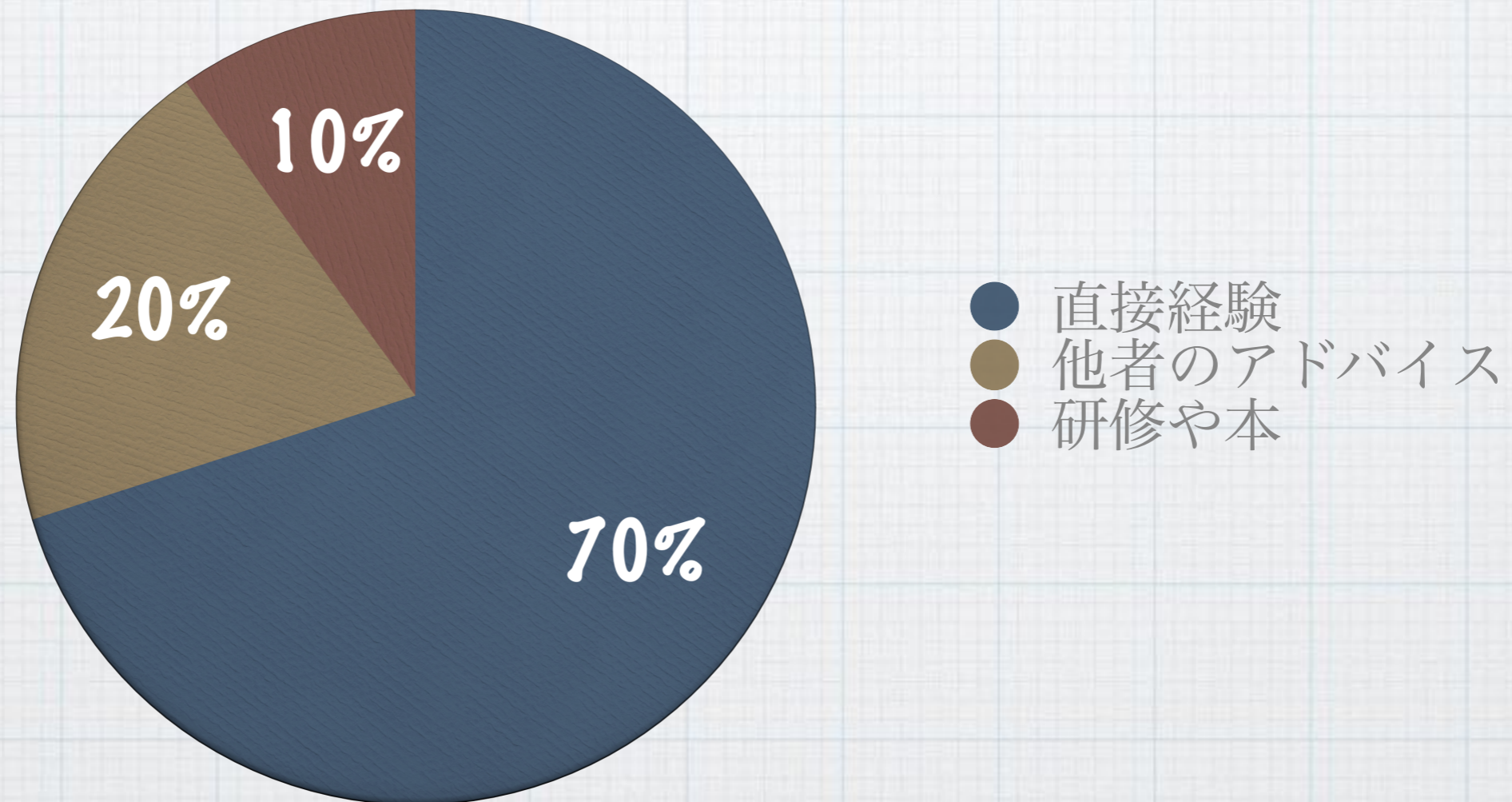
2. 経験を通じた学びの「場」

3. 関係づくり・相互理解の「場」

接点・ハブ・インキュベーションのきっかけ

ポイント3

人は何から学ぶか



Lombardo and Eichinger (2006) *Career Architect Development Planner*(4th edition).

ポイント4

学習・習得の場として

*** teaching より learning への興味関心**

【演習2】

事例報告のまとめ

事例まとめシート

氏名・所属	
事例では どんな学びが 起きているか	
事例では 教室が どんな場として 機能しているか	

グループ内共有と質疑応答

事例を聞いてまとめたものについて、参考になりそうな点、疑問点、考えたことなどをグループ内で共有（10分）

質疑応答

【演習3】

地域の課題設定

改めて体制整備とは

- 1. 知る：地域、学習者等の状況・課題把握**
- 2. 創る：具体的な支援の場の設計**
- 3. 広げる：支援の場への参画者へ情報提供**
- 4. つなげる：既存コミュニティとの接点構築**

1 知る

- * **地域にどんな課題があるか**
- * **外国人住民はどんな課題に直面しているか**
- * **地域の利用可能なリソースがあるか**

2 創る

* いつ

* どこで

* 誰が

* どのように 支援の場を創っていくか

3 拡げる

- * 外国人住民（新住民）への情報提供と参画をどう促すか
- * 既存住民（旧住民）への情報提供と参画をどう促すか

4 つなげる

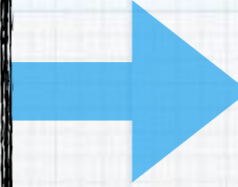
- * 既存コミュニティのリソースとどうつなげるか
- * 団体、公的機関、商業施設、行事...

4段階の整理

課題	外国人の参加	日本語学習の内容	日本人の参加
1 知る (情報収集)	1) 外国人住民の概況把握 学習のニーズ・レディネス 把握	2) 地域課題の解決 外国人住民の生活課題解決	3) 日本人住民の意識
	4) 地域における日本語教室・外国人支援の取り組み状況の把握		
2 創る (設置運営)	5) 適切な開催場所・日 時・参加条件等の検討	6) 課題解決のための学習 プログラムと学習素材の検 討	7) 支援に必要な人材の確 保や育成
3 広げる (地域理解)	8) 外国人住民への情報提 供と参加促進	「場」としての 日本語教室	9) 支援者・日本人住民へ の情報提供と参加促進
4 つなげる (事業強化)	10) 地域の団体、リソース の発掘と連携		10) 地域の団体、リソース の発掘と連携
11) 専門家との連携・地域連携・ネットワーキング			

課題設定

現状



目標

解決方法

必要なリソース

必要な連携

まとめ

カークパトリックの研修の4段階評価

1. reaction : よかった, 楽しかった

2. learning : わかった, 知識が増えた

3. behaviour : できるようになった

4. result : 地域や組織が変わった

まとめ

学習者だけでなく関係者すべてのつながり

The strength of weak ties.

(マーク・グラノヴェッター)